

ScanSurveyZ ガイド

2014年10月17日 Vol.01



ScanSurveyZは点群データを使った3D GISソフトウェアです。2次元地籍データがあれば数分の作業で3D GISとして使えます。

必要なデータ

- 2次元地籍などのデータ
(dwg/dxf/shp/sim)

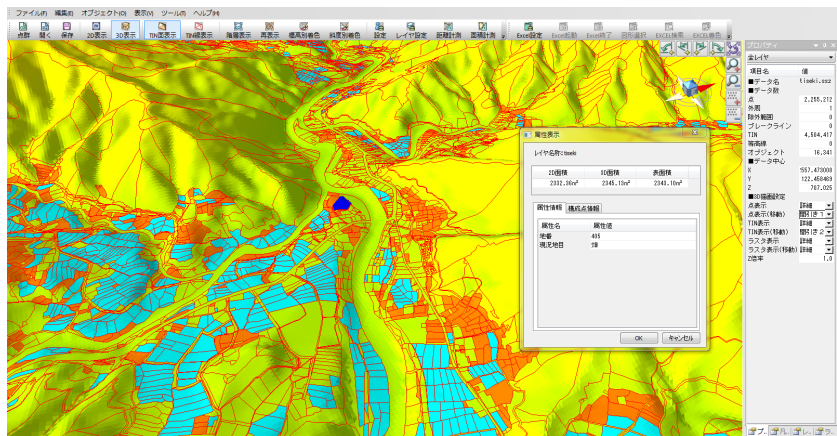
システム要件

- Windows7/8.1 x64
- CPU:Core i5/i7
- メモリ:8GB以上
- インターネット接続環境

はじめに

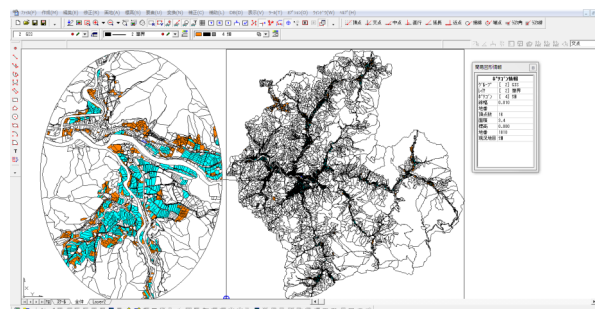
ScanSurveyZではいままで使っていた2次元のGISデータを手軽に3D GISとして表現できます。GISのデータをシェープファイル等でScanSurveyZに読み込み、国土院が提供している“電子国土”の標高データを読み込むことで地形モデルを使った3D GISとします。

地形データはインターネット環境に接続していれば座標値を元にScanSurveyZが最適なデータをダウンロードしますので、ほんの数分・数クリックの作業で完了です。



元データ

ScanSurveyVC Ver.5などで使っていたこのような地籍図などGISのデータを使います。このデータではおよそ1万6千筆有ります。このデータが数分の作業で作業で上の図の3D GISのデータに変換、そしてGISとしてご利用いただけるようになります。



ScanSurveyVC Ver.5
のデータ

株式会社ビーシステム

〒060-0809
札幌市北区北9条西3丁目10-1 小田ビル7F
TEL: 011-700-3100
www.be-system.co.jp
support@be-system.co.jp

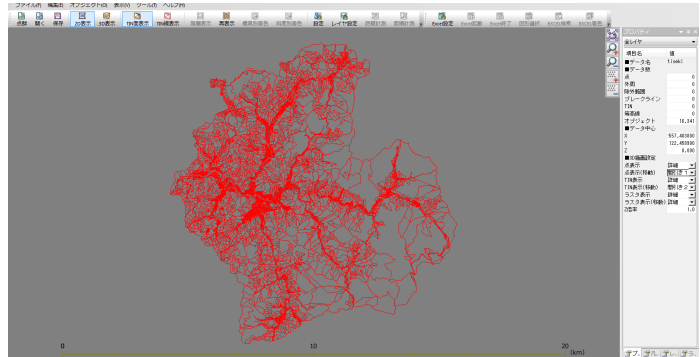


ガイド

1. 地籍データの読み込み

【ファイル】-【開く】-【オブジェクト】

dwg/dxfやシェープファイル(.shp)、SIMAデータが読み込めます。データは公共座標付けされている必要があります。

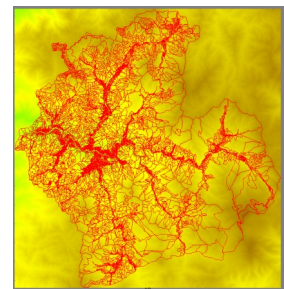
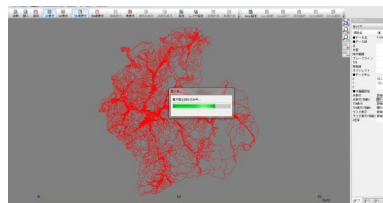


2. 標高データの読み込み

【ファイル】-【結合】-【電子国土(標高)】

座標系を指定して標高データをダウンロードします。必要な標高範囲のデータはScanSurveyZが自動で判断してダウンロードします。

ダウンロードが完了したら標高別の色設定をおこないます。



3. TINの生成

【編集】-【TIN】-【自動作成】

TINを作成して地形モデルを作成します。この地形モデルデータが完成すると最初に読込んだ2次元の地籍データをScanSurveyZが自動で3次元の地籍データとして構成しなおします。

1万6千筆のデータでも、ほんのわずかな時間で完成します。しかも簡単に。

